

◆関東羈旅 (カントウキリョ) No41
伊能忠敬と下座舟(千葉県香取市佐原)

佐原の諏訪神社

朝夕がめっきり涼しくなった休日の朝、日本全図を作った伊能忠敬が暮らした町、香取市を訪ねてみました。JR 成田線の「佐原駅」に着いてガイドマップを広げると、徒歩で約2時間コースに見どころが満載のようです。江戸時代を意識したような造りの駅舎をスタートし、コース通りに10分ほど歩くと小さな公園の中央には、1919(大正8)年に建てられたという「伊能忠敬記念像」がありました。公園は諏訪神社の入口に隣接していて長い階段を上がると神社の境内は静寂で厳かな雰囲気になっています。神社にお参りして街の中心に位置する「伊能忠敬記念館」を目指しました。

川柳・佐原にて

- ・秋近し 佐原ばやしの 下座舟
- ・功績を 肌で感じる 忠敬像
- ・秋祭り 待ち構えるは 諏訪神社

水郷の街並み

江戸時代の雰囲気が漂う街並みを散策しながら小野川に架かる忠敬橋へ。

佐原は利根川水運の中継基地として栄えた場所で、小野川沿い周辺には商家が建ち並び、古い町並みが残る「小江戸」として人気のスポットで、1996年(平成8)年、関東では初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。

江戸時代から明治時代に水運で栄えたという、古き良き時代の面影を残す、風情ある景色の中で、舟と舟がすれ違う場面は、江戸時代にタイムスリップしたような感覚になります。

忠敬橋を渡って進むとほどなく、「伊能忠敬旧宅」があり、旧宅前に架かる樋橋(とよはし)は、江戸時代前期に造られた佐原村用水を、小野川の東岸から対岸の水田へ送るためのものでした。橋の下側に付けられたこの大樋から小野川に水が落ちる水音「ジャージャー」から「じゃあじゃあ橋」の通称で親しまれています。この樋橋を渡り伊能忠敬記念館を見学することができました。

- ・河岸跡の 面影映す 柳かな
- ・木船に 明治と江戸が 入り混じり
- ・水郷に 舟が行き交う 波の跡
- ・変わらぬは 風鈴が鳴る 風物詩

香取神宮

伊能忠敬は50歳で江戸へ出るまで佐原の名主・村方後見を務め、家業は酒造業でした。34歳の時、松島へ神社仏閣を訪ねる旅を経験しています。江戸では天文方である高橋至時に弟子入り。55歳で北海道南岸の測量をして以降、計10回に及ぶ日本全国の測量を行い、日本全図が完成したそうです。伊能忠敬記念館に展示されている数々の資料から、江戸時代に全国を歩き、実測し

て地図を作ったという偉大な功績を肌で感じることができました。

記念館の見学を終えてそこから 10 分ほど歩くと八坂神社があり、ここでもお参りをし、せっかくなので香取神宮まで足を運ぶことにしました。

香取神宮は関東地方を中心に全国に約 400 社ある香取神社の総本社で初詣には 50 万人以上が参拝します。入口には朱色の大きな鳥居があり、緑に包まれた静寂な参道は、歩いていると心が癒されます。境内は広く、厳かな雰囲気の中でお参りを済ませました。

振り返って見ると 1 日で、諏訪神社、八坂神社、鹿島神宮の 3 つの神社を巡っていたことに気づき、もしかしたら忠敬と同じように神社仏閣めぐりをしてしまったのかな・・・と思いながら、うなぎの老舗「長谷川」に寄り道し、一人満足感を覚え帰路につきました。

- ・古き良き 思いと街を 懐かしみ
- ・境内に まばゆき光る 巫女姿
- ・気がつけば 神社仏閣 巡りかな

「海員だより」